

平成26年度秋季特別展

よみがえ

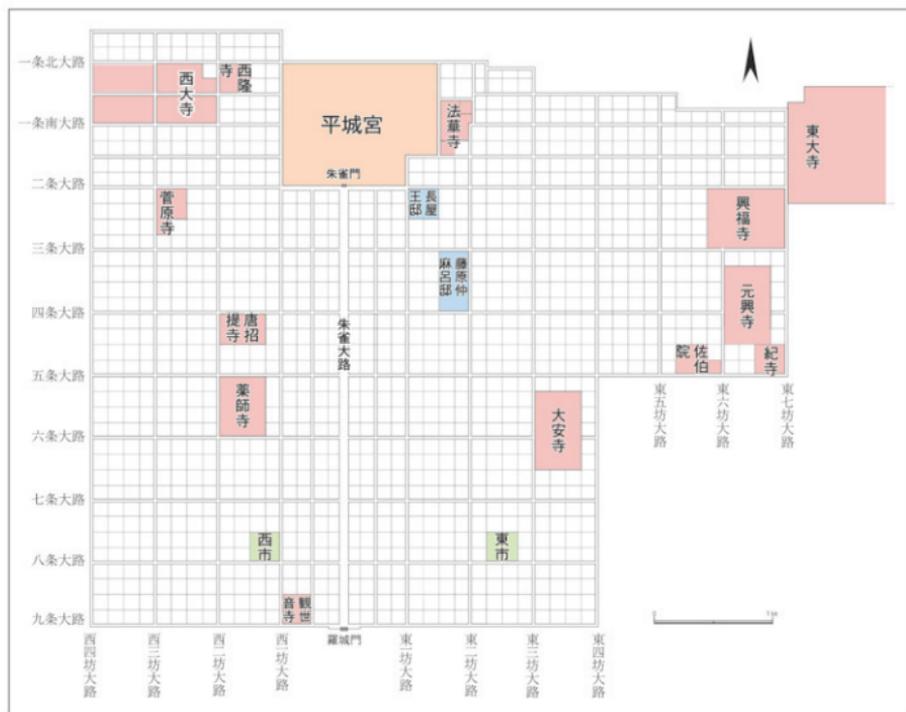
おお

てら

甦る大寺

—大安寺発掘調査成果展—





平城京の条坊復元図

例言

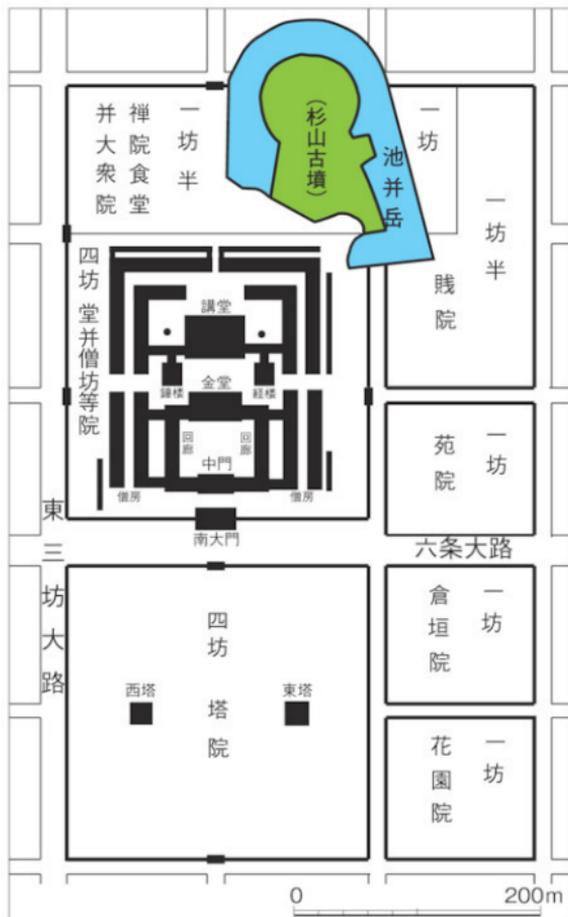
1. この冊子は、平成26年10月22日～平成26年12月26日まで奈良市埋蔵文化財調査センターで開催する、平成26年度秋季特別展「甦る大寺—大安寺発掘調査成果展—」の解説パンフレットです。
2. 掲載写真は、奈良市埋蔵文化財調査センターが撮影したものと、佐藤右文氏が新規に撮影した写真（4・16～19・21～26・28～34・36・37）を利用しました。
3. 掲載写真は、展示品のすべてではありません。
4. 本書の執筆・編集・レイアウトは、埋蔵文化財調査センター職員の協力のもとに、安井宣也が行いました。

「大寺」大安寺

平城京左京六条四坊・七条四坊にかけて15町の寺域を占めた大安寺は、639年（舒明11）に天皇の発願による百濟大寺に始まり、天武天皇の高市大寺、大官大寺を前身とする天皇と王宮を護持する官寺筆頭の「大寺」でした。

平安時代以後、数度の火災によって壮大な伽藍を失い、近世初めには衰退しましたが、地下に残された遺跡は1921年（大正10）に東西の大塔跡が史蹟に指定され、1968年（昭和43）には旧境内全域が国史跡に指定されています。

大安寺の発掘調査は、1954年（昭和29）の南大門・中門地区の調査が最初で、1981年（昭和56）以降は奈良市教育委員会が継続的に行っており、30年間の発掘調査により、「大寺」大安寺の様相が明らかになってきています。



大安寺の旧境内と伽藍（1/400、上が北）

残された古墳

大安寺の寺地内には、古墳時代中期（5世紀中頃）の前方後円墳である杉山古墳（全長約140m）があります。747年（天平19）の『大安寺伽藍縁起并流記資財帳』（以下、資財帳）が記す「池井岳」に該当するとみられます。

1990～92年（平成2～4）の墳丘西側の周濠・外提部の発掘調査では、外提に並べられていた埴輪が、奈良時代に周濠内に投棄されていたことがわかりました。墳丘の前方部の前端部は大安寺の造営で削られ、奈良時代後半から平安時代に瓦葺が築かれています。1993・94年（平成5・6）年の発掘調査で6基（1～6号窯）の瓦窯が見つかり、半地下式の瓦窯であることが確認されています。

なお、杉山古墳の南方の発掘調査では古墳時代中期後半の須恵器も出土しており、周辺には寺の造営に伴って壊された古墳が他にもあったものと思われます。



1. 杉山古墳・杉山瓦窯（南から）



3. 杉山瓦窯 2号窯（南から）



2. 杉山古墳の家形埴輪（市指定文化財）



4. 瓦窯の灰原から出土した溶着瓦

大安寺の伽藍

【伽藍配置】 「大安寺式」と呼ばれるもので、南大門・中門・金堂・講堂が南北に並び、その東・西・北側に長大な僧房が配置され、東西両塔が南大門の南方に建ちます。これまでに南大門・中門・講堂・鐘楼・経楼・僧房・東西両塔が発掘調査され、『資財帳』に記載がない北西中房・西小子房の遺構が発見されています。伽藍の基壇は凝灰岩の切石を用いた壇上積み基壇で、一部は瓦積み基壇として修理されています。礎石の大半は抜き取られています。

5. 南大門の基壇 (北西から)



6. 北東中房の基壇 (南西から)



7. 西塔の基壇 (南東から)



【大安寺の軒瓦】 大安寺の創建時の軒瓦は、大官大寺式軒瓦と石橋瓦窯（京都府井手町）で作られた平城宮系軒瓦であり、その後平城宮系軒瓦を原型とし、瓦の范型の彫り直しと紋様の模倣によって、大安寺で最も多く出土する「大安寺式」が出現するとみられます。単弁蓮華紋の軒丸瓦、牛の頭のような中心飾りと連続した唐草紋の軒平瓦を特徴とする「大安寺式」軒瓦は、これまでに言われてきたような大安寺の創建時の瓦ではなく、奈良時代中期以降に僧房や東塔に使われた瓦だと考えることができます。



8. 大官大寺式



9. 平城宮系



10. 大安寺式



11. 西塔創建時

【鬼瓦と最大の瓦】 西塔で出土した鬼瓦は平城宮のものとは異なる「南都七大寺式」と呼ばれるもので、下あごを欠く鬼面が棟を噛み、周囲に珠紋を連ねます。また、南大門跡から出土する軒平瓦には通常のものよりも大きなものがあり、南大門の破風専用の螭羽（けらば）瓦と考えられています。



12. 西塔の鬼瓦



13. 鬼瓦（伽藍北側出土）



14. 南大門の軒平瓦（右）

【平安時代以降の瓦】 平安時代に大安寺は数度の火災に遭いますが、その都度、修復されます。平安時代後期の修復時には蓮華紋の中房内を巴紋で飾る軒丸瓦が用いられています。

鎌倉時代後期には、東大寺の学僧として知られる宗性が大安寺別当となって東塔などの伽藍の修復を行ったことが知られており、「大安寺」や「大安寺寶塔」といった文字を入れた瓦が東塔跡から出土します。



左：平安時代後期の軒丸瓦
右：鎌倉時代後期の軒瓦



15. 平安・鎌倉時代の修復時の軒瓦

【西塔の相輪と風鐸】 東・西塔は基壇が一辺約21mで七重塔であったことが知られています。奈良時代の塔としては東大寺に次ぐもので、大安寺の前身である百済大寺や大官大寺の九重塔といった大塔の伝統を継いでいるものとみられます。西塔は平安時代の949年（天曆3）、東塔は鎌倉時代の永仁年間（1293～99）に雷火で焼亡したとみられます。西塔の発掘調査では、軒先を飾る風鐸片と、塔頂の相輪の露盤・水煙・風鐸が出土しました。風鐸は鍍金が良く残り、塔の金具類の巨大さから大安寺の大塔の威容がうかがうことができます。



上左：水煙
上右：露盤の板材
下：露盤の帯材
（裏面）

16. 相輪の部材



17. 相輪に使われた風鐸



18. 塔の軒先の風鐸

【金堂・講堂付近の焼土の遺物】 1966（昭和 41）年に奈良国立文化財研究所（当時）が大安寺小学校の校舎改築に伴い実施した発掘調査では、金堂跡と講堂跡の間に大安寺焼亡時の遺物で充滿した土坑が存在し、その周辺に焼土層や灰層が広がっていることがわかり、焼土層は911（延喜 11）年の講堂焼亡に伴うものと考えられていました。

2013年（平成 25）に校舎解体に伴う発掘調査でもこの焼土層を確認し、焼土からは緒仏に使用したとみられる金糸、堂内荘嚴のためのガラス片や玉類、仏像の螺髪などが新たに見つかりました。11世紀前半の土師器皿片を含むことから、焼土層は寛仁元（1017）年の火災に伴うもので、遺物は金堂に伴う可能性を考えることができます。



金糸



ガラス容器片



ガラス玉

水晶玉



彩色された漆喰片



螺髪



半球状土製品

19. 金堂・講堂付近の焼土層の出土遺物

【南大門の塑像片】 南大門の調査では、邪鬼と等身大立像の塑像の破片が各1点ずつ出土しています。

左： 邪鬼の髪
右： 等身大立像の胴

20. 南大門跡出土の塑像片



唐三彩・奈良三彩・緑釉・灰釉

【唐三彩陶枕】 大安寺の金堂跡と講堂跡の間に広がる焼土層からは、1966（昭和41）年の調査で約200片、2013年（平成25）年の発掘調査で新たに約80片の唐三彩陶枕片が出土し、唐から請来された唐三彩がこれほど多く出土する遺跡は大安寺以外にはありません。出土する唐三彩のほとんどは方形・中空の「陶枕」の破片で、唐代に流行した四弁花文などの文様が施されるものや、紋胎と呼ばれる練り土の素地のものもあり、国産の奈良三彩の模倣品も出土しています。大安寺の造営に関わった僧、道慈が唐から帰国した718年（養老2）に請来した可能性が高いと考えられています。



21. さまざまな唐三彩陶枕



22. 唐三彩陶枕（左）と
奈良三彩陶枕（右）
※ 等倍率

【施釉垂木先瓦】 創建時の金堂あるいは講堂の垂木先に取り付けた二彩の垂木先瓦で、緑釉と透明釉を施した円形の地垂木先と緑釉と褐釉を施した長方形の飛檐垂木先があります。緑釉で描いた四弁花紋は唐三彩陶枕の紋様に倣った可能性もあり、我が国への三彩製作技術の受容とも関わる可能性が考えられます。



唐三彩陶枕の紋様

23. 円形と方形の施釉垂木先瓦（上は素地）

【奈良三彩と緑釉単彩】 奈良三彩は、奈良時代に唐三彩の製作技術を受容して造った国産の施釉陶器で、大安寺では250点以上出土しています。杯・皿の他、鉢・托・香炉・壺などもあり、仏供具とみられます。



24. さまざまな奈良三彩



25. 奈良時代末の緑釉陶器



左：青・白磁
中：緑釉陶器
右：灰釉陶器

26. 平安初頭の陶磁器

【輸入磁器と緑釉・灰釉陶器】 奈良時代末以降、三彩陶器は無くなり、中国から請来された青磁や白磁の食器類（碗・皿）と、それらを模したとみられる国産の緑釉陶器や灰釉陶器の食器類が現われます。大安寺でも仏事で用いられたとみられ、北僧房やその周辺で出土しています。

周辺寺地

大安寺の堂塔の周囲には、寺を維持するための大衆院、賤院、倉垣院、苑院、花園院などがあることが『資財帳』に記され、その位置が推定されていますが、発掘調査により、これまでの推定を見直す必要も出てきています。

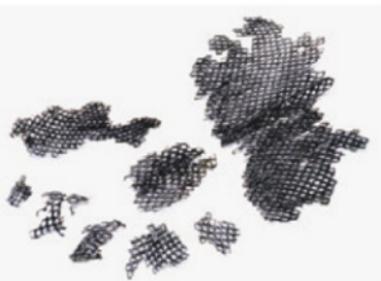
【伽藍の北側】 第57次調査では井戸から出土した8世紀中頃の土器は食器類が多く、「大安寺」「大安寺左右酒」等の墨書土器や題箋・付札等の木簡も出土しました。杉山古墳南西部の周濠内から硯や転用硯も多く出土することから、寺内の日常生活や物資の調達を担う事務機関の「政所」などを含む「大衆院」の存在がうかがえ、杉山古墳の瓦窯からは「修理所」の存在も推定できます。



28. 第57次調査 独楽



27. 第57次調査 漆紗冠



29. 第57次調査 人形



30. 第57次調査 墨書土器



31. 第57次調査 木簡(上)
左: 付札木簡 右: 題箋木簡



32. 第57次調査 土器



33. 陶碗と転用碗(転用碗は杉山古墳周濠出土)



34. 杉山古墳周濠出土 浄瓶・水瓶・円盤状土製品

【伽藍の東側】 試掘 98-1 次調査では、基壇建物の基壇外装や埴積みの井戸が検出され、この付近に別院が存在した可能性があります。第 64 次調査では「東院」の墨書土器が出土しており、伽藍の東方は奈良時代末に桓武天皇の弟で「皇子大禅師」と呼ばれた早良親王が住んだ「東院」が営まれた可能性が考えられます。



35. 試掘 98-1 次調査 基壇外装 (左)、埴積みの井戸 (右)



36. 第 64 次調査 「東院」・「大寺」の墨書土器



「大二」刻字拡大

37. 第 22 次調査 「大二三井」の墨書土器等

展示品目録

残された古墳

写真番号	種類	出土地	調査回数	所在地	年代	点数
2	家形埴輪	杉山古墳(外堤)	DA44	大安寺四丁目	5世紀	1
4	平瓦(溶着)	杉山瓦窯(灰原)	—	大安寺四丁目	9世紀	1

大安寺の伽藍

写真番号	種類	出土地	調査回数	所在地	年代	点数
8	軒丸瓦(大官大寺式)	北東中房跡	DA63	大安寺一丁目	7世紀	1
	軒平瓦(大官大寺式)	寺地・伽藍北側	—	大安寺四丁目	7世紀	1
9	軒丸瓦(平城宮系)	寺地・伽藍北側	DA6	大安寺四丁目	8世紀	1
	軒平瓦(平城宮系)	杉山瓦窯(包含層)	DA58	大安寺四丁目	8世紀	1
10	軒丸瓦(大安寺式)	北東・北西中房間	DA73	大安寺二丁目	8世紀	1
	軒平瓦(大安寺式)	北東・北西中房間	DA73	大安寺二丁目	8世紀	1
11	軒丸瓦(西塔創建時)	西塔跡	DA100	東九条町	9世紀	1
	軒平瓦(西塔創建時)	西塔跡	DA100	東九条町	9世紀	1
12	鬼瓦(南都七大寺式)	西塔跡	DA105	東九条町	9世紀	1
13	鬼瓦(南都七大寺式)	寺地・伽藍北側	DA62	大安寺四丁目	8世紀	1
14	軒平瓦(南大門)	南大門跡	DA97	大安寺二丁目	8世紀	1
15	蓮華巴紋軒丸瓦	寺地・伽藍北側	DA56	大安寺四丁目	12世紀	1
	巴紋軒丸瓦	経楼跡	DA81	大安寺一丁目	12世紀	1
	「大安寺」文字紋軒丸瓦	北東・北西中房間	DA73	大安寺二丁目	13世紀	1
	「大安寺」文字紋軒平瓦	杉山古墳(周濠)	DA44	大安寺四丁目	13世紀	1
	「大安寺塔」文字紋軒丸瓦	東塔跡	DA114	東九条町	13世紀	2
「大安寺寶塔」文字紋軒平瓦	寺地・伽藍北側他	DA72他	大安寺四丁目他	13世紀	2	
16	水煙	西塔跡	DA105他	東九条町	9世紀	1
	露盤(板材)	西塔跡	DA105	東九条町	9世紀	1
	露盤(帯材)	西塔跡	DA100	東九条町	9世紀	1
17	風鐸・風招(相輪)	西塔跡	DA100	東九条町	9世紀	各1
	風鐸(相輪)	西塔跡	DA105	東九条町	9世紀	1
	風鐸(軒先)	西塔跡	DA110他	東九条町	9世紀	1
19	金糸	金堂北側	DA133	大安寺二丁目	8世紀か	1
	ガラス片	金堂北側	DA133	大安寺二丁目	8世紀か	2
	ガラス玉	金堂北側	DA133	大安寺二丁目	8世紀か	3
	水晶玉	金堂北側	DA133	大安寺二丁目	8世紀か	1
	彩色された漆喰片	金堂北側	DA133	大安寺二丁目	8世紀か	45
	螺髪	金堂北側	DA133	大安寺二丁目	8世紀か	15
	半球状土製品	金堂北側	DA133	大安寺二丁目	8世紀か	15
20	塑像片	南大門跡	DA92	大安寺二丁目	8世紀	2

唐三彩・奈良三彩・緑釉・灰釉

写真番号	種類	出土地	調査回数	所在地	年代	点数
21	唐三彩陶枕	金堂北側	DA133	大安寺二丁目	8世紀	85
22	奈良三彩陶枕	金堂北側	DA133	大安寺二丁目	8世紀	1
23	施輪種先瓦	金堂北側	DA68	大安寺二丁目	8世紀	11
24	奈良三彩陶器 壺(復元)	寺地・伽藍東側	DA43	大安寺一丁目	8世紀	1
	奈良三彩陶器 托(大)	杉山古墳(周濠)	DA53	大安寺四丁目	8世紀	1
	奈良三彩陶器 托(小)	寺地・伽藍北側	DA72	大安寺四丁目	8世紀	1
	奈良三彩陶器 臑脚	寺地・伽藍北側	DA72	大安寺四丁目	8世紀	1
	奈良三彩陶器 その他	伽藍・寺地	DA30・72他	大安寺二丁目他	8世紀	25
25	緑釉単彩陶器 椀(半分)	寺地・伽藍東側	DA29	大安寺一丁目	8世紀	1
	緑釉単彩陶器 羽釜	寺地・伽藍東側	DA29	大安寺一丁目	8世紀	1
	緑釉単彩陶器 椀底部他	杉山古墳(周濠)他	DA53他	大安寺四丁目	8世紀	6
26	中国産青磁 椀	西小子房跡	DA90	大安寺二丁目	9世紀	1
	中国産白磁 椀	西面大房跡	DA60	大安寺二丁目	9世紀	2
	緑釉陶器 椀	西小子房跡	DA28	大安寺一丁目	9世紀	1
	緑釉陶器 皿	杉山古墳(周濠)	DA53	大安寺四丁目	9世紀	1
	緑釉陶器 香炉	西小子房跡	DA28	大安寺一丁目	9世紀	1
	灰釉陶器 椀	西小子房跡	DA28	大安寺一丁目	9世紀	1
	灰釉陶器 皿(大)	西面大房跡	DA60	大安寺二丁目	9世紀	1
	灰釉陶器 皿(小)	西面中房跡	DA42	大安寺二丁目	9世紀	1

周辺寺地

写真番号	種類	出土地	調査回数	所在地	年代	点数
27	漆紗冠	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	1
28	独染	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	1
29	人形	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	1
30	土師器 皿A 「大安寺左右酒」墨書	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	1
	須恵器 皿A 「大安寺」墨書	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	1
	須恵器 皿A 「大家」墨書	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	1
	須恵器 皿A 「大寺」墨書	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	1
31	付札木簡 「漬芹」墨書	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	1
	題箋木簡 「亀六年題」墨書	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	1
32	土師器 杯B	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	1
	土師器 皿A	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	1
	土師器 皿C	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	2
	土師器 碗A	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	1
	須恵器 杯B (転用硯)	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	1
	須恵器 杯蓋 (転用硯)	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	1
	須恵器 皿A	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	2
	須恵器 壺A	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	1
	須恵器 壺H	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	1
	須恵器 甕C	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	1
須恵器 甕	寺地・伽藍北側	D A57	大安寺四丁目	8世紀	1	
33	須恵器 杯蓋 (転用硯)	杉山古墳 (周濠)	D A44・53	大安寺四丁目	8世紀	5
	須恵器 壺蓋 (転用硯)	杉山古墳 (周濠)	D A53	大安寺四丁目	8世紀	1
34	須恵器 圓足円面硯	西小子房跡	D A28	大安寺一丁目	8世紀	1
	須恵器 風字硯	西塔跡	D A94	東九条町	8世紀	1
	須恵器 風字硯	寺地・伽藍北側	D A72	大安寺四丁目	8世紀	1
35	須恵器 浄瓶	杉山古墳 (周濠)	D A53	大安寺四丁目	8世紀	1
	須恵器 水瓶	杉山古墳 (周濠)	D A44・53	大安寺四丁目	8世紀	1
	獣脚付円盤状土製品	杉山古墳 (周濠)	D A44	大安寺四丁目	8世紀	1
36	須恵器 杯B 「東院」墨書	寺地・伽藍東側	D A64	大安寺一丁目	8世紀	1
	土師器 碗A 「寺」墨書	寺地・伽藍東側	D A64	大安寺一丁目	8世紀	1
	須恵器 杯蓋 「寺」墨書	寺地・伽藍東側	D A64	大安寺一丁目	8世紀	1
	須恵器 杯蓋 「(大)寺」墨書	寺地・伽藍東側	D A64	大安寺一丁目	8世紀	1
	須恵器 鉢A 「大(安)」墨書	寺地・伽藍東側	D A64	大安寺一丁目	8世紀	1
37	土師器 皿A 「大二三井」墨書	寺地・伽藍東側	D A22	大安寺四丁目	8世紀	2
	土師器 皿B 「大二」刻字	寺地・伽藍東側	D A22	大安寺四丁目	8世紀	1
	須恵器 鉢A 「大二」墨書	寺地・伽藍東側	D A22	大安寺四丁目	8世紀	1

平成 26 年度秋季特別展

甌る大寺—大安寺発掘調査成果展—

平成 26 年 10 月 21 日 発行

編集 奈良市埋蔵文化財調査センター

発行 奈良市教育委員会

開催期間 2014年10月22日(水)～12月26日(金)



奈良市埋蔵文化財調査センター

ARCHAEOLOGICAL RESEARCH CENTER OF NARA CITY

奈良市大宮町第二丁目 261

電話 0742-88-1621